

「橋渡し研究戦略的推進プログラム」

【国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）】

○ 橋渡し研究支援事業について

・ 第1期プログラム（平成19～23年度）

「橋渡し研究支援推進プログラム」 文部科学省補助事業

・ 第2期プログラム（平成24～28年度）

「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」 文部科学省補助事業

（平成27年度から国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）へ移管）

・ 第3期プログラム（平成29～33年度）

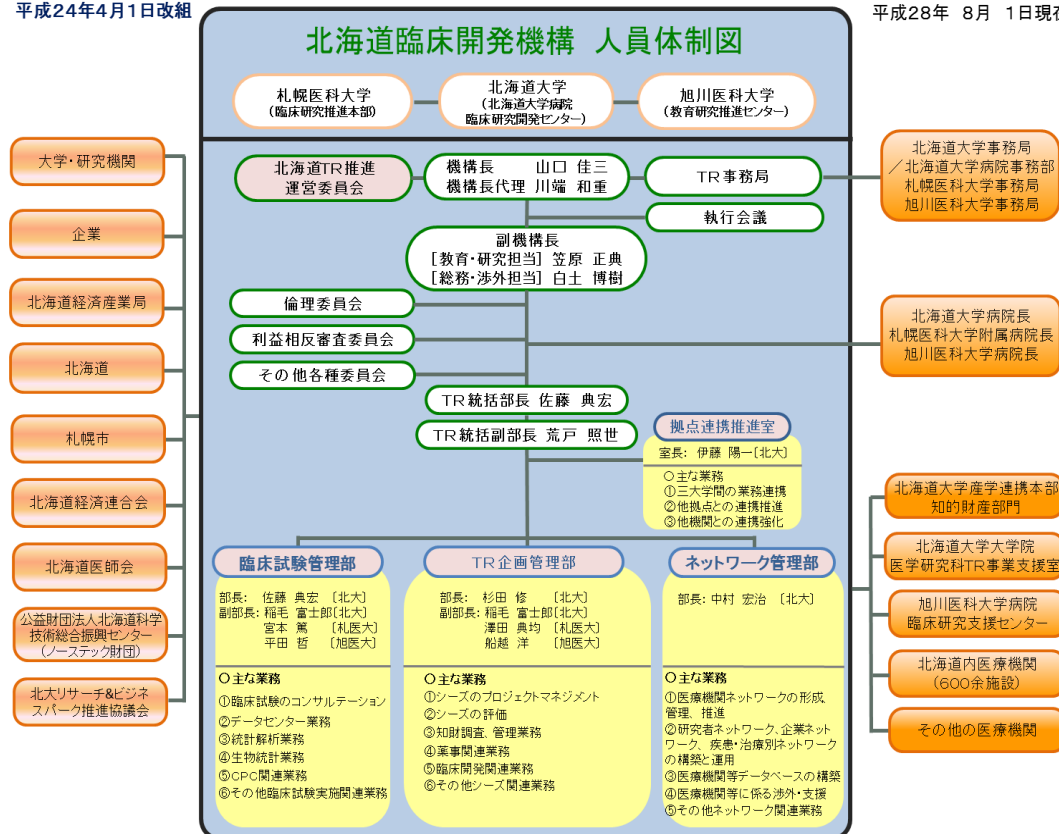
「橋渡し研究戦略的推進プログラム」 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）補助事業・委託事業

[概要]

- ・ 「橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）」とは、アカデミア（研究者・医師）の主導のもと、基礎研究で得られた成果を実用化につなげる研究のことです。
- ・ 平成19年に、この橋渡し研究の支援体制を整備する目的で、北海道大学、札幌医科大学及び旭川医科大学（以下「3大学」という。）により、「北海道臨床開発機構」を設立しました（事務局：北海道大学内）。
- ・ 北海道臨床開発機構では、臨床開発企画・管理、生物統計、データマネジメント等の各分野の専門家を擁し、安全性の評価、試験物製造の援助、適切な臨床計画立案の指導等の支援体制の整備を進めています。
- ・ 3大学で実施されている研究のみならず、全国規模で有望なシーズを発掘し、実用化を目指して支援を行っています。

平成24年4月1日改組

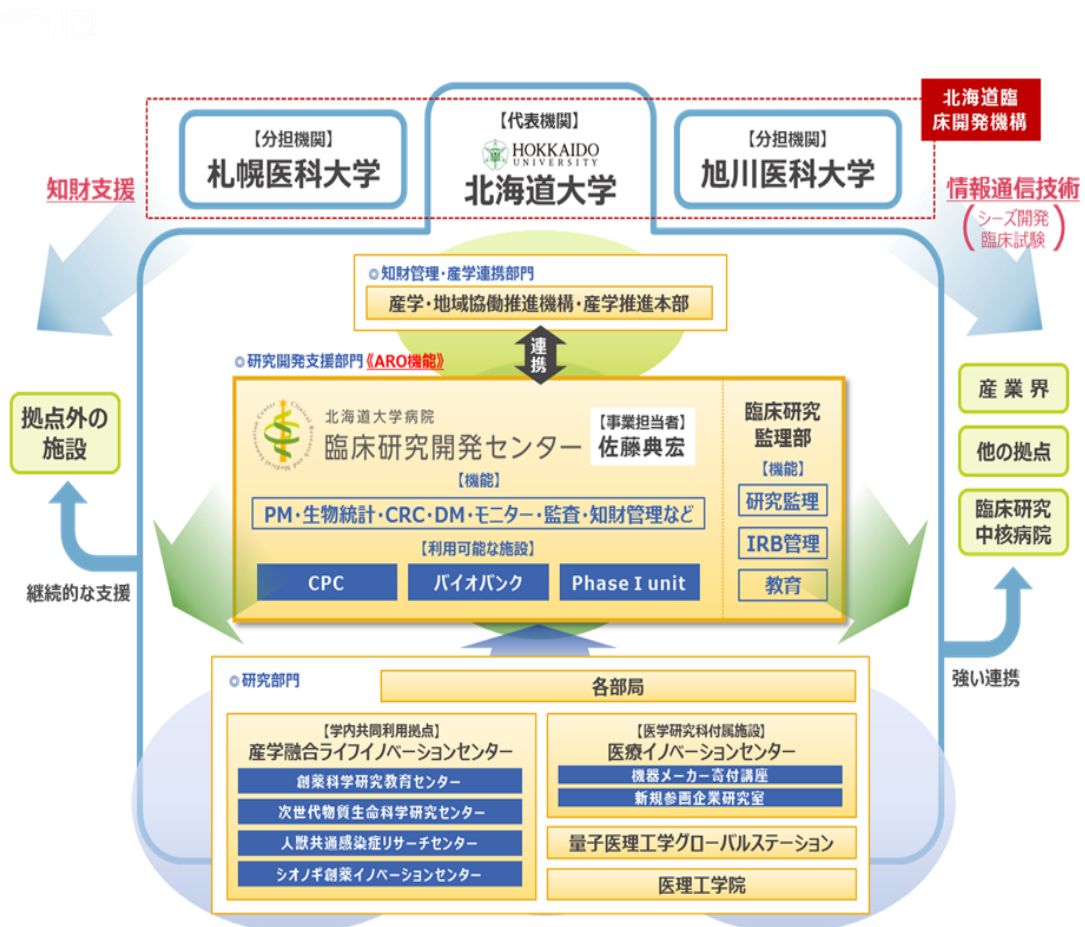
平成28年 8月 1日現在



[第3期プログラム]

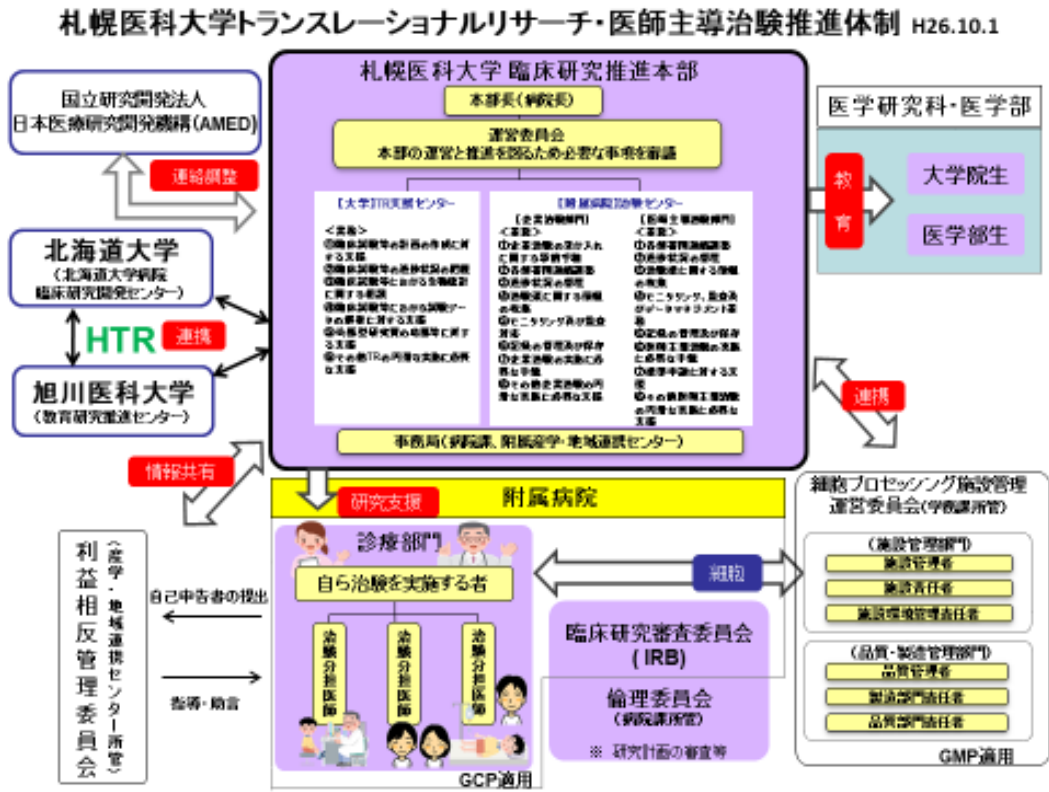
- ・平成29年度からは、日本全体で橋渡し研究を推進する体制をさらに強化・発展させ、日本発の革新的な医薬品・医療機器等をより多く創出することにより、世界一の健康長寿社会の実現に貢献することを目指し、第3期プログラム「橋渡し研究戦略的推進プログラム」がスタートし、全国10か所の橋渡し研究支援拠点が採択されました。

採択拠点…北海道大学（分担機関：札医大、旭医大）、東北大学、筑波大学、東京大学、慶応義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、九州大学



[札幌医科大学トランスレーショナルリサーチセンター]

- ・札幌医科大学では、平成23年4月にトランスレーショナルリサーチセンターを開設し、その後、臨床応用への支援体制として、平成26年10月には病院長をトップとした「臨床研究推進本部」に改組して臨床応用までの円滑な推進を図る体制とし、研究の推進体制の構築などにあたっています。



[札幌医科大学の研究シーズ]

- ① ヒト癌ワクチン実用化の臨床研究
- ② 脳梗塞患者に対する自家培養骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与による細胞療法の検討
- ③ 脊髄損傷患者に対する自家骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与による細胞療法の検討

○ 再生医療の実用化に向けた臨床研究

[概要]

- ・札幌医科大学では、骨髄間葉系幹細胞を用いた再生医療（脳梗塞及び脊髄損傷）の医師主導治験を実施しています。
- ・従来、治療が困難だった脳神経疾患の革新的な治療技術として、この幹細胞を静脈内に投与し脳の患部に到達させることで脳神経を再生させる方法をいち早く実用化することを目指しています。
- ・特に、従来では予後が不良とされてきた脊髄損傷患者の後遺障害に対して、極めて高い有効性が期待されることから、再生医療医薬品としては全国初の「先駆け審査指定制度」の対象品目に指定され、治験も終了し、実用化に向けた動きを加速させているところです。

研究開発体制

